おまえざきの人 きらり輝く人

伊達巻を市民の身近な存在にしたい
先代からの伝統守り、農林水産大臣賞受賞へ

清水（しみず）一秀（かずほ）さん

PROFILE

しみず　かずほ（女岩区・40）
有限会社山精水産取締役。3代目で夫である和臣さん（40）とともに伝統の味を守る。

農林水産大臣賞を受賞

今年3月に開催された第71回全国蒲鉾（かまぼこ）品評会で、大手を含む水産練り製品メーカーが計820点を出品する中、ゆでもの・卵黄もの部門で山精水産の「料亭風仕込伊達巻」が最高賞である農林水産大臣賞を受賞した。取締役の清水一秀さんは、「初めは信じられなかった。この栄誉はお客さんや従業員、先代のおかげ」と話す。山精水産は約70年前に創業。もともと鮮魚の仲介人をしていたが、水揚げの少ない時期の仕事として練り物の製造を始めた。初代・清水藤吉さんが昭和41年から伊達巻を製造し、今回受賞した同商品は平成5年頃から製造している。その日の気温や湿度によって塩や水を入れるタイミングを変えながら石臼で練り上げる。そして機械に頼らず熟練の職人が培った経験と集中力で1本1本心を込めて手巻きする。初代から受け継いだ製法を守り続けて受賞した商品は同社の他商品と比べても弾力があり、口の中でしっとりとした食感とまろやかさを味わうことができる。

▲平成29年度 村おこし特産品コンクールで審査員特別賞を受賞した「しらすチップス」

伊達巻を身近な存在に

「商品を手に取ってくれたお客さんにはありがとうと言いたくなる」と話す一秀さんからは、笑顔のなかに優しさが感じられ、取材が進むにつれてその人柄に惹かれていった。そんな一秀さんの今後の展望は、「もっと市民に商品を認知してもらい、伊達巻を身近な存在にしたい。タンパク質が多く入っているのでお子さんにも食べてもらいたい」と話す。そして、「今回の受賞の喜びをさらにエネルギーにして伊達巻の製造練磨に努めたい。伊達巻だけでなく、多くの練り製品が食卓に並ぶことを願っている」と続けた。

同社の商品が御前崎の名物として広く知れ渡るのも遠い未来ではないかもしれない。